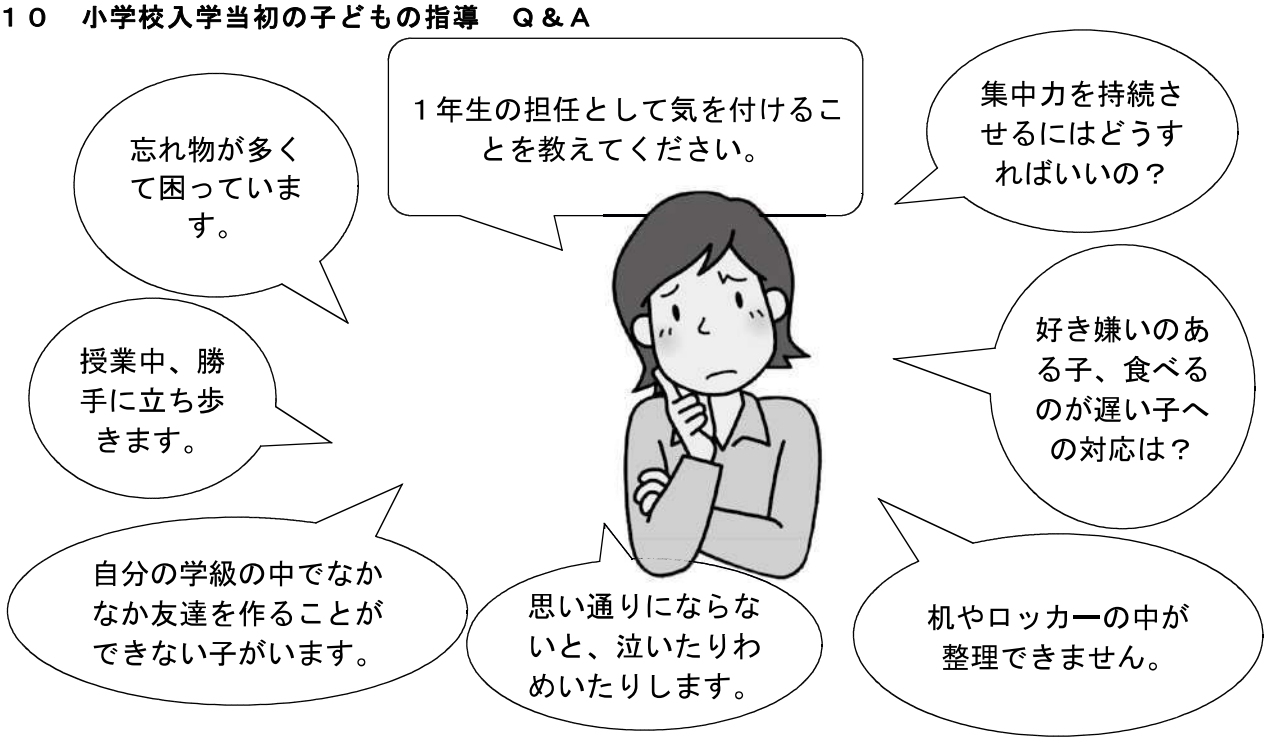
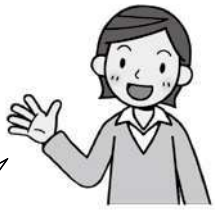
１０　小学校入学当初の子どもの指導　Ｑ＆Ａ



※　実践を基にした一例を挙げています。もちろん、下記の対応で全てうまくいくというものではありません。各学校や学級、子どもの実態等に合わせた対応が必要です。

Ｑ１　学級内が落ち着きなく、いつもざわざわしています。



学級活動や授業の中で発表をする機会をつくり、「話を聞いてもらうとうれしい」「話を聞いてもらえないと悲しい」といった気持ちを体験できるようにしています。

注意のそれやすい子どもの座席を教員の近くに配置して、コミュニケーションをとったり、必要な支援をしたりしています。隣に座る子どものタイプによっても変わるので、配慮が必要です。

こちらの指示が長かったり分かりにくかったりすると、何をしていいのか分からずに、ざわざわすることが多いです。子どもへの指示は一つずつにし、分かりやすくします。また、全員ができたことを確認してから次の指示をすることを心がけます。

落ち着きのない子どもには、脱力がうまくできない子どももいます。子どもが脱力できるよう、ゲームの要素を取り入れた声かけで脱力させます。また、授業が始まる前に「今、海の底にいるよ」と言って静かにさせたり、授業の始まる合図として「１、２、３、･･･、10」とみんなで数を数えたりしています。

朝の会などに本の読み聞かせを取り入れます。そして、落ち着いて静かに過ごす時間と思い切り体を動かせる時間をつくり、メリハリをつけます。

Ｑ２　我慢ができず、思い通りにならないと泣いたりわめいたりする子どもがいます。

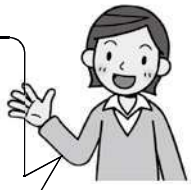
そばに寄り添い、落ち着かせます。そして、周囲で落ち着いて学んでいる子どもなどをほめて、どうすることがいいのか気付かせていきます。

特別な支援を必要とする児童の可能性もあります。その子の状態、行動パターンなどを事前に幼稚園・保育所から引き継いでおくことが大切です。

どんなときに我慢ができず泣いたりわめいたりするのか、メモ程度で記録をとっておきます。後で振り返ると、その子の傾向がつかめて、対応策を見付けやすくなります。

まずは落ち着かせることです。深呼吸をしたり10数えたりして子どもが落ち着くのを待ちます。また、教室の中にクールダウンできるスペースをつくり、そこに座らせて落ち着くのを待つという方法もあります。何か理由があることが多いので、何が嫌だったのかを聞き出して心の整理をさせます。

Ｑ３　別のことに気をとられたり、教員の話を聞かずにぼーっとしている子どもがいます。



始めに、お話を聞くことの大切さを伝えます。次に、お話の聞き方を指導します。（手は膝、先生と目を合わせる、など）全員の目が合うまで話を始めないことも伝えます。これは、１年間継続して指導していきます。それでも、目が合いにくい子どももいます。その際には、その子の近くに行って、その子の顔を見て話をするときもあります。

掲示物や物に気を取られているのが原因かもしれません。黒板の周囲の掲示物を減らしたり、整理したり、物の置く場所を変えたりします。

メリハリのある授業を心がけます。作業や活動の時間を授業の中で確保するように心がけています。

子どもの興味・関心を高めるために、具体物を見せたり、掲示物を貼ったりします。「お話が始まるよ。どんなお話かな。」と動物のぬいぐるみを用いて、その動物が語っているようにしたり、話や授業の流れに沿って順に掲示物を貼ったりすると、注意深く聞けるようになる子どもがいます。

Ｑ４　授業中、勝手に立ち歩いたり、教室の外に出て行ったりする子どもがいます。

立ち歩く子どもに「どうしたの」と声をかけます。トイレに行きたい、体調が悪い等であればすぐに対処しますが、それ以外であれば「授業が終わってからでもいいかな」と説得します。叱ったり無理に座らせたりすると、子どもは抵抗感しか残らないようです。子どもが慣れてきたら、なぜ教室の外に出たいのか理由を先生に言うようにさせています。

低学年の発達の段階を踏まえ、できている子どもをしっかりとほめます。他の子どもがほめられると、自分もほめてもらおうとしっかり座れるようになることが多いです。

時間について徐々に意識できるよう、「時計の長い針が３のところに来たら、教室に戻りましょう。」と声をかけたり、残り時間が一目で分かるタイマーを使って時間の区切りを意識させて活動させたりしています。徐々に時間の区切りについての理解を促していきます。

Ｑ５　幼稚園・保育所からのお友達と学級が別になってしまい、自分の学級の中でなかなか友達がつくれずにいる子どもがいます。

入学式の前に、どの子どもが友達と別になっているのかを把握しておきます。そして、「一人でがんばれてえらいね。前に座っている〇〇ちゃんは、きっといいお友達になってくれるよ。」と声をかけ、周りの子どもが誘いやすい雰囲気をつくります。

教師が一緒に遊びます。一緒に遊べそうな子どもたちの輪の中に一緒に入り、きっかけをつくってあげます。

幼稚園や保育所から一人だけ入学してくる児童もいますので、なかまづくりゲームを毎朝しています。

隣席の子ども同士の関係をつくるため、隣同士でゲームや昨日の出来事を話し合うペアトークなどをさせます。

入学して１か月ほど、朝の会を学年集会にしています。クラスの中に知り合いがいないと不安感が増すものです。学年集会にして、知っている顔を見ると安心するようです。

Ｑ６　机の中やロッカーの中の整理ができない子どもがいます。

ロッカーやお道具箱などをどのように整理すればいいのか、写真や図で具体的に示します。

毎日、全員に机とロッカーの中を整理するよう指示し、整理する時間を確保しています。授業終了後には、「下に落ちている物はありませんか。」「色鉛筆は全部ありますか。先生に見せてください。」帰りの会では、「筆箱を開けましょう。中に鉛筆が５本、赤鉛筆が１本ありますか。」などと、具体的に指示し、教師が直接確認をしています。

１学期の間は、学校に持ってきた勉強道具をお道具箱のふたに入れて机の中にしまうように指導しています。下校時には、お道具箱のふたに入っている物を全部ランドセルの中にしまったかどうか確かめるようにしています。

Ｑ７　子どもたちの集中力があまり持続しません。

１時間の授業の中でも内容を変えていきます。国語の授業であれば、初めの15分間は読み聞かせ、次の15分間は音読、最後の15分間は書き取りと、短い区切りで集中させるようにします。

じっとする時間と発散する時間とを交互に組み合わせて１時間の授業を組み立てます。例えば、算数では、教師の説明を聞いたり数字をノートに書いたりと静かに取り組む時間と、フラッシュカードの数だけ手をたたいたり足踏みをしたりして体を使って数を表す活動などを組み合わせます。

１時間を合科的に扱うことも大切です。例えば、１時間の授業で、チューリップの観察（生活科）をした後、チューリップの花の数を数える（算数）ことなどが考えられます。

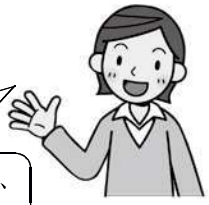
集中力が途切れたときに「ピタ、ピン、キラッ」（足の裏をピタと床につけ、ピンと背筋を伸ばし、キラッと目を光らせる）などの合い言葉を、みんなで唱えて姿勢を整える方法もあります。

Ｑ８　子どもたちの忘れ物が多くて困っています。

入学当初は、１週間の時間割と持ってくる物を表にして、学級だよりとともに保護者に渡すようにしています。入学式の日は保護者が来られるので、保護者に毎週お便りを渡すことをお知らせしておきます。そして、子どもと保護者が一緒に次の日の準備をするようしっかりとお願いをします。

家庭でする次の日の準備の仕方を、実際に教室で指導します。お便りをもとに持ち物を確認すること、時間割に合わせて教科書やノートを入れること、毎日持ってくる物の確認など、実際に活動させます。

Ｑ９　好き嫌いがあったり、給食を食べるのが遅かったりする子どもが多いです。



時間内に食べきることができたり、苦手な物が一口でも食べられたりしたとき、しっかりとほめ、励ましています。

１学期の間は、おかずを盛りつける量を少なくして食べきれるようにして、食べきった子どもからおかわりをしてよいことにしています。この時期は食べられない物を無理に食べさせることをせずに楽しく食事ができるようにします。

余裕をもって食べられるよう、入学当初は、早めに給食の準備を始めるようにします。

Q10　１年生の担任として気を付けることを教えてください。

一人一人への配慮

毎朝元気よく「行ってきます！」と言って学校に登校できることが一番だと思います。保護者の不安感も取り除けます。そのために、一人一人に細かい配慮をすることが必要だと思います。個人差や成長の差が大きいので、一人一人のよいところを伸ばすこと、１年先の姿を想像して接することなどを心がけます。

小学生といっても、まだまだ個々への対応が必要な時期なので、一人一人の話をゆっくりと聞くようにしたり、一人一人ができるのを待つようにしたりします。

担任として方針がぶれないことが大切だと思っています。子どもにとって教室は居心地がよいところであるようにしておくことを心がけます。

心のゆとり

１年生担任は、子どもが下校するまでトイレに行く暇もないほど子どもと関わり続けることが多いのですが、常に笑顔で子どもに接することができるよう、心のゆとりをもつことが大切です。

下校指導

入学当初の下校指導は重要です。自宅に帰らず、友達の家へ遊びに行ってしまったり、道に迷ってしまったり、学童保育に行かずに家に帰ってしまったりします。地区ごとに並んで帰ることや下校ボランティアの人にしっかりと挨拶をすることなどとともに、どこへ、だれと、どうやって帰るのかしっかりと言って聞かせます。下校後の巡回も必要です。

待つことの指導

「待つこと」の指導が大事です。子どもの個人差は大きく、どの活動でも子どもの活動終了に時間差ができてしまいます。そのようなときに、何をすればよいのか、具体的に指示をしておくことは大切です。「ぬりえをする」「絵本を読む」「お絵かきをする」など、他の子どもとおしゃべりをせず、一人で活動できる物を教室に用意しておきます。活動が早く終わったら、それらをするよう子どもたちと約束しています。

学級の実態によって内容を変えていますが、特に「ぬりえ」では、まず、周りをなぞってから色をぬらせています。筆圧が強くなったり、曲線を描く練習になったりと文字指導の基礎にもなると考えて取り組ませています。子どもたちはぬりえは大好きで、集中して取り組み、仕上がりで達成感をもてているようです。

保護者との信頼関係

連絡帳に書かれる保護者からの便りにきちんと目を通し、また、返事を書いていくことを大切にしています。子どもの状態を共有するとともに、保護者の不安を解消することや信頼関係を築くことにつながります。

１年生の子ども以上に不安に感じている保護者の方もおられます。だから、連絡帳や学級通信、電話等でこまめに学校の様子を伝えるようにしています。入学当初、短い文章ですが、その日にあった出来事（「今日、校庭で、春見つけをしました　等）を通信に記して、毎日渡したことがあります。

＜参考文献等＞

・新保真紀子　著（2001）『「小１プロブレム」に挑戦するー子どもたちにラブレターを書こうー』明治図書
・佐々木宏子・鳴門教育大学附属幼稚園　著(2004)『なめらかな幼小の連携教育　その実践とモデルカリキュラム』チャイルド社
・文部科学省（2008）『幼稚園教育要領』
・厚生労働省（2008）『保育所保育指針』
・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領』
・奈良県教育委員会（2008）「幼児教育と小学校教育をつなぐために」
・奈良県立教育研究所(2009～2011)『「幼児教育と小学校教育の連携に向けて」幼稚園・保育所と小学校連携促進事業実施報告書』
・篠原孝子・田村学　編著　(2009)『こうすればうまくいく　幼稚園・保育所と小学校の連携ポイント』ぎょうせい
・木村吉彦　監修　仙台市教育委員会　編（2010）『「スタートカリキュラム」のすべて　仙台市発信・幼小連携の新しい視点』ぎょうせい
・東京都教育委員会（2010）「就学前教育プログラムー就学前教育と小学校教育との円滑な接続のための保育所、幼稚園と小学校との連携の方策ー」
・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議（2010）「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」
・木下光二　著（2011）『育ちと学びをつなげる幼小連携ー小学校教頭が幼稚園へととび込んだ２年間ー』チャイルド社
・橋本創一・細川かおり・栗原治子他　編著（2011）『小１プロブレム・予防＆改善プログラム』ラピュータ
・奈良県立教育研究所（2012）　「幼児期から小学校への接続期のすべての子どもが楽しく学ぶために～平成２３年度幼児期から小学校への接続期実態調査の結果より～」
・埼玉県教育委員会（2012）「『接続期プログラム』～幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して～」

平成２４年度　幼児期から小学校への接続調査・研究事業

アドバイザー	愛知教育大学准教授　久野　弘幸
パイロット校・園・所	五條市立五條小学校 五條市立五條幼稚園 五條市立北宇智小学校 五條市立北宇智保育所 香芝市立鎌田小学校 香芝市立鎌田幼稚園 香芝市立みつわ保育所 田原本町立田原本小学校 田原本町立田原本幼稚園 社会福祉法人愛和会宮古保育園

平成24年度
幼児期から小学校への接続調査・研究事業報告書
～幼児期から小学校への接続期のすべての
子どもが楽しく学ぶために～
発行日　平成25年３月
発　行　奈良県立教育研究所
〒636－0343
奈良県磯城郡田原本町秦庄22－1
TEL 0744－33－8900
FAX 0744－33－8909

幼児期の教育と小学校の教育を円滑に接続するために

幼稚園

幼児の小学校生活への不安を解消し、期待感が高まるような交流を実施

保育所

先生の交流

定期的な連絡会や情報交換会
子どもの交流活動の計画・実施

子どもの交流

1日体験入学
プール交流
学校給食体験
お正月遊び
生活科授業体験
合同遠足
おいもパーティー　等

合同研修会
保育参観・授業参観

保育・教育内容の相互理解

小学校

児童に自分の成長への気付きや幼児への思いやりの気持ちを育むような交流を実施

まずは年間を通して計画的に交流をしましょう

子どもの交流 ＋ 先生の交流 ➡ 教育のつながり

会話の花 咲かそう
家庭教育・家庭の日

奈良県立教育研究所
〒636-0343 奈良県磯城郡田原本町秦庄２２－１
TEL 0744－33－8900
URL　http://www.nps.ed.jp/nara-c/